

～開業奮闘記～

誰が興味あるねん

八治電

第39話 「闘争2」

前号からの続き

かくして高2の下校時、M谷駅で一口も食べていないフライドポテトを地元でもっばら「ヤバい」という噂のOという男に奪われそうになった僕は、**己のプライドとフライドポテトを守るため**（←これ上手いか?）、Oに闘いを挑むことにしました。

『なんでお前にやらなあかんねん・・・！！ 舐めんなよクソがッッ・・・！！ 相手見てモノ言えボケ！！ ふざけんなよ・・・！！！！ 俺だってなあ、俺だってなあ・・・！！！！』

と、ファイティングポーズをとろうとした **その刹那ッッッ！！！！**

村田少年の「筋肉組織・骨格構造・神経細胞・五臓六腑」は母体である主（あるじ）を守るため、野生の防衛本能をいかんなく発動し、「心」とは真逆の行動を僕にとらせたのです。

「いや～～、僕よく考えたら全然お腹空いてなかったですわ～～・・・。全然欲しいと思わないし、良かったら食べて下さい！これ、差し上げます！！」

と、完全に引きつった笑顔でフライドポテトをOに差し出したのです。

「おお・・・お前ええ奴やんけ・・・。気に入ったわ、顔覚えとくわ。名前教えてくれや・・・。」

と言われたので、

「ハイ、ありがとうございます、サコタノブロウと申します！！」

と、適当な名前を伝えてその場から逃げるように立ち去りました。

それから高校を卒業するまで、M谷駅を一度も使わなかったのは言うまでもありません。

後から聞いた風の噂では、それからほどなくしてOは厄介な事件を起こして、また「塀の向こう側」に行ったということでした。

また、後にOの事をよく知っていた人にその話（フライドポテトの件）を話したところ、「もしその時フライドポテトを渡さずに反抗していたら、多分今ここにはお前はおらんやるなあ・・・。」との事でした（Oは常に刃物を携帯していたらしい）。

思い出はいつの日もビターです。

今でもフライドポテトは好きなのですが、マクドナルドでポテトを見る度Oの事を思い出します（奪われたポテトはマクドナルドと同じ短冊型だった）。

Oは今頃どうしているのでしょうか・・・。

悪事からは足を洗い、お天道様の下で、熱くまっすぐな道を歩んでいて欲しいと願わずにはいられません。

そう・・・ **あの日のフライドポテトのように**（←これ上手いか?）。